KUMA ニュース
Kodomo Uchu Mirai Association
Aug. 2014 第３号

“宇宙を視座に大人が変わる　子どもが輝く　美しい星が生まれる”【子どもと宇宙と未来をつなぐ】

「子ども・宇宙・未来の会」が向かうところ

会長　平林　久

２０１４年の総会がおこなわれました。そのときの会長挨拶の趣旨をもとに記しましょう。

認定ＮＰＯ法人のＫＵ･ＭＡは会費と寄付によって運営されております。ところが、寄付金の額は６年前の創立以来、年々はっきりと減少しているのです。昨年は５周年事業ということでとくに寄付を募りましたが、これを足しても単調減少の傾向には歯止めがかからなかったのです。今のところ財産の残りはあるのですが、このままでは近い将来に経営破たんが確実におこってしまいます。

そこで、今年は募金活動特別チームを発足させました。このことを会員の皆さんにも理解していただいて、まわりでできる募金活動を積極的にしていただきたいと思います。会員を募ることも意識したいことです。これに関わることですが、私たちは、私たちの求めるもの、ＫＵ･ＭＡのよきことをきちんと表現できるでしょうか。自分が納得しているでしょうか。

会員を募るとき、募金をお願いするとき、私たち自身がこれをしっかりと言えるか、それで相手の心が動くかが問われます。会員の皆さんは、「子ども・宇宙・未来の会」に何を期待して入会されましたか。

かなりの会員の皆さんには、メーリングリストに流れる情報を読むだけでは、もの足りないことでしょう。

しかしほんとうは、ＫＵ･ＭＡは期待して入るものではなくて、ＫＵ･ＭＡで何か大切なことをしようと思って入るものなのではないかなと、考えています。

それでは、ＫＵ･ＭＡで何をすべきか、何で貢献できるのでしょうか。そうした気持ちとＫＵ･ＭＡは噛み合えているでしょうか。ここが知恵の要るところではないでしょうか。なにかいいアイディアがあるのではないでしょうか。意見を交換しあいましょう。

もうひとつ。現在、ＫＵ･ＭＡは「宇宙の学校」を全国５０ヶ所で展開していますが、これを組織し、ＫＵ･ＭＡそのものを運営していくためのスタッフとして、２人だけの常勤職員に加えて、アルバイト職員とまわりのボランティアサポートで、精一杯おこなわれていることです。

この体制をしっかりとしないまま広げていくと、中身のある活動ができず、「宇宙の学校」の大切なところが実現できなくなっていくおそれがあります。今年は、ここをカバーしてかためる努力を始めなければなりません。

総会では、このような問題をふくめて事業計画方針を説明した上で、５つのグループに分かれて積極的に問題点を話し合っていただきました。それが綴じ込みの中身です。

◇◆◇◆◇◆◇◇◆◇◆◇◆◇

私事ですが、このごろ古代ギリシャの科学を意識しているうちに、古代ギリシャの栄光と消長に強い興味を持つようになりました。古代ローマに興味を持ち、塩野七生さんの大著を読む方もおられるでしょう。

え、クーマは一日にして成らず、ですって？